

# 平成24年度九州・沖縄地域に おける地域循環圏形成推進調査

## H24年度調査の概要

平成25年3月5日

一般財団法人 日本環境衛生センター

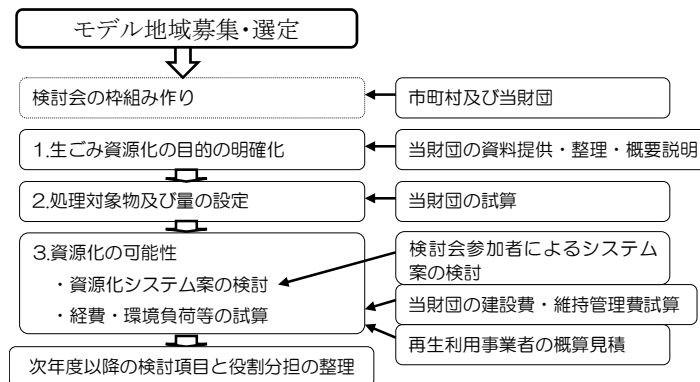
## I H24年度事業の概要

1. 生ごみ等の資源化モデル事業の実施
2. 廃棄物政策能力向上セミナーの開催
3. 地域循環圏に関する九州会議

## II 生ごみ等の資源化モデル事業

### 1. 目的と事業概要

生ごみ等の資源化を検討している自治体の中からモデル地域を選定し、資源化推進のための計画策定及び資源化推進マニュアルを活用した取組の支援を行う。



3

### 2. モデル地域の選定

昨年度までの事業成果を踏まえ、生ごみの資源化を検討している、若しくは地域の拡大を検討している市町村（地域）を2箇所程度モデル的に選定し、当該地域における生ごみ資源化の可能性調査等を行うとともに、資源化への取組支援を実施することとした。

【応募の状況（平成24年10月募集）】

応募4市町 → <選定した自治体>

- ・ 沖縄県名護市
- ・ 鹿児島県奄美市

4

### 3. 生ごみ資源化に係るモデル事業検討会の開催

#### 1) 検討会の構成

	名護市	奄美市
排出事業者団体	一名	2名
自治会	3名	1名
成果物利用団体	3名	1名
市民団体	2名	1名
回収業者	2名	1名
行政	2名	1名

5

#### 2) 検討スケジュール

	11月	12月	1月	2月
検討会の設立	→			
第1回検討会		名護市 12月25日	奄美市 1月8日	
第2回検討会				名護市 2月5日 奄美市 2月12日
地域計画案の 作成				→
九州会議				2月27日

6

### Ⅲ 平成23年度モデル事業の経過報告

- |           |             |
|-----------|-------------|
| ○ 福岡県大野城市 | →未実施        |
| ○ 福岡県太宰府市 | →意見交換会の立ち上げ |
| ○ 福岡県筑後市  | →未実施        |
| ○ 長崎県対馬市  | →モデル事業の実施   |

「太宰府市」と「対馬市」の平成24年度実施事業を紹介

7

### 平成24年度の太宰府市の実施事業

平成23年度モデル事業では、「地域に適したリサイクルシステムを模索しつつ、段階的に生ごみリサイクルの輪を広げていくとともに、将来を見据えて生ごみリサイクルに対する市民意識の向上を図る」という方向性を確認



生ごみ資源化モデル事業の実施を念頭に、市民、市民団体、収集業者、再生事業者、行政19名からなる意見交換会を設立

8

## 太宰府市モデル事業計画案

資源化方法：堆肥化

対象世帯：50世帯程度（1～2行政区）

実施時期：平成25年度中の半年以上の期間

生ごみの分別：蓋付き密閉型バケツ ※バケツは無料で提供

収集時間：昼間収集

収集頻度：週2回

資源化事業者：食リ法登録再生利用事業者

参加世帯へのメリット：堆肥の還元、土とプランターと花の種等のプレゼント

### 【事業により望まれること】

- ・年間を通じた一連の野菜作りと循環の仕組みを学ぶE C O農園事業
- ・市関連施設等における植栽管理等での堆肥の活用といった都市型ならではの循環システムの構築

9

## 平成24年度の対馬市の実施事業

### <目的>

循環型社会構築を進めるため、平成26年度に市内全戸での生ごみ分別を開始する計画となった。

生ごみ分別に向けて、まずはモデル事業を実施し、生ごみ資源化に係る手法、問題点など検討することとなった。

資源化方法：堆肥化（堆肥化装置→処理能力500kg/日）

対象世帯：350世帯程度

実施時期：平成24年度

生ごみの分別：蓋付き密閉型バケツ

収集時間：昼間収集、収集頻度：週2回

作業担当：JAに収集運搬、設備管理を依頼



## 対馬市モデル事業 現状及び将来計画

### <現状>

- 夏場も悪臭などの苦情はなかった
- 本設備では、処理に伴い排水が生じるため、排水処理に苦慮している。
- 本設備でできる堆肥は一次堆肥。一次堆肥のままでは利用が難しいため、この後の処理について研究を行っているところ。

### <今後の計画>

- 平成25年度は実証実験事業の拡充として2,000世帯まで参加世帯を増やす。
- 平成26年度からは本格実施をスタートするため、収集形態・処理施設の整備が急務。
- 収集形態と処理施設は、平成25年度上半期まで方針を決定、併せて一般廃棄物処理計画の見直しを行い、平成25年度下半期では処理施設の建設を行う。

# 平成24年度九州・沖縄地域に おける地域循環圏形成推進調査

## モデル事業の概要 名護市

平成25年3月5日

1

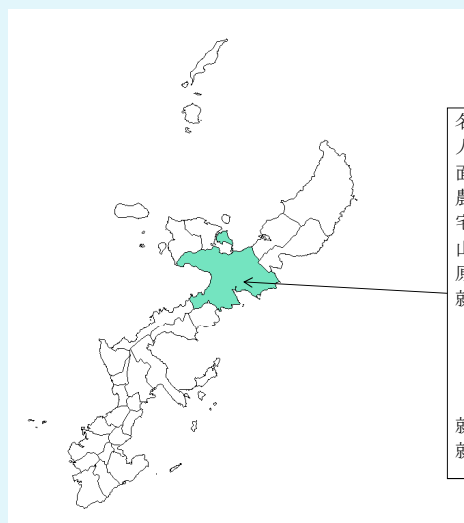
## 検討委員会

- ◆「自治会区長」
- ◆「市民団体」
- ◆「回収業者」
- ◆「成果物利用団体(JA等)」
- ◆「行政」

計13名で構成

2

# 1 名護市の概要



名護市
人口 60,472 (H24.3.31)
面積 210.37 km <sup>2</sup>
農地 26.77km <sup>2</sup> 、12.7%
宅地 8.19km <sup>2</sup> 、3.9%
山林 115.88km <sup>2</sup> 、55.1%
原野 17.68km <sup>2</sup> 、8.4%
就業者人口比
一次 7.6% ( 5.4%)
二次 14.9% (15.4%)
三次 77.5% (79.2%)
備考:土地利用面積は平成19年度データ
就業者人口比は平成22年度国勢調査
就業者人口の( )内は県平均値

3

- ◆ 名護市は沖縄本島北部に位置し、総面積210.37 km<sup>2</sup>で沖縄県の総面積(2,275.78km<sup>2</sup>)の約9.2%を占めています。
- ◆ 本市は面積の55.1%が山林で、農地面積は12.7%となっています。
- ◆ 宅地面積は3.9%と低い割合に留まっています。また、第一次産業人口比は県平均より高く、第二次産業人口比、第三次産業人口比は県平均より低くなっています。
- ◆ 本市は、県内でも農業生産高が高く、多品目の農作物が栽培されており、農業が重要な産業のひとつとなっています。

4





### 3 モデル事業への応募動機

- ◆ 市全域を対象とした生ごみ資源化を実施していくための土台づくりとしての計画を策定すること。
- ◆ 名護市では、モデル地区において生ごみの堆肥化を実施してきた。
- ◆ 生ごみの資源化は、機械導入や回収方法など課題が多いが、市内で循環できる仕組みをつくるため、積極的に取り組んでいきたい。
- ◆ 特に期待することは、
  - ①市全域における生ごみを地域の特性を活かした生ごみ資源化の計画を立てること
  - ②生ごみ資源化が市民にとって有用であるものと客観的に示すこと
  - ③市民が自主的に参加できる仕組みをつくること。

7

### 4 生ごみの回収可能量

#### 生活系生ごみ回収可能量

	人口(人) ①	発生量(t/年) ②	異物率 <sup>1)</sup> ③	回収可能量 (t/年) ④=②×(1-③)	1人1日当たり回収量(g/人・日) ⑤=④÷①÷年間日数×10 <sup>6</sup>
生活系生ごみ量	60,472	2,534	15%	2,154	97

#### 事業系生ごみ回収可能量

	店舗・飲食店 合計① (t/年)	異物率 <sup>1)</sup> ②	回収可能量 (t/年) ③=①*(1-②)	日平均回収量 (t/日) ④=③÷年間日数
事業系生ごみ量	2,084	15%	1,772	4.8

8